



本町だより

横浜市立本町小学校

令和8年 8月 31日 発行 第642号

「大人も子どもと一緒に」

校長

小正

和彦

長い夏休みが終わり、学校に再び子どもたちの笑顔と元気な声が戻ってきました。

夏休み前の朝会では、学校ではクラスや学年、全校の仲間と協力し、一人ではできないことを作り上げたり、さまざまな体験をしたりできるということを話しました。一方で、夏休みは一人ひとりが自分の時間を使い、楽しんだり頑張ったりできる期間なので、いつも以上に自分で考えることを大切にしたいと伝えました。子どもたちは、それぞれに充実した時間を過ごしてくれたことと思います。

4月から、毎朝の登校時や下校時に校門で子どもたちと挨拶を交わすことを楽しみにしてきた私にとって、夏休み中は少し寂しさもありました。しかし、まちで出会った際に「あっ、校長先生だ!」と笑顔で声をかけてくれたり、挨拶をしてくれたりする子どもたちもいて、とてもうれしく思いました。大きな事件や事故の連絡もなく、前期後半を迎えることができましたことを何よりうれしく思っています。

その一方で、熊本での地震や千葉での大雨、さらに世界各地での熱波や大規模な山火事など、心を痛める出来事もあった夏休みでした。被災された皆様へ心よりお見舞い申し上げます。足元の猛暑だけでなく、地球規模で気候変動の影響がますます深刻化していることを、今年の夏も改めて実感しました。目の前の子どもたち一人ひとりの幸せを願うとともに、これからの世界を生きる子どもたちのために、今を生きる大人も子どもも力を合わせて解決していくべき課題について考え、できることに本気で取り組むことの大切さを改めて感じています。

夏休み期間中、教職員も、子どもたちが学校にいないこの時期を活用して、それぞれの業務や研修に取り組んでいました。久しぶりの登校で、ワックスがけによりピカピカになったフロアに気付いた子どもたちもいたのではないのでしょうか。また、各教科の指導や学校活動について、集中的に研修を重ねた教職員もいました。

現在、約10年ごとに行われる学習指導要領の改訂時期を迎えています。学習指導要領とは、学校で行う教育課程（カリキュラム）の基準を定めるものです。しかし、それは単に各教科で何を学ぶかを示すだけではありません。これからの未来を生き、社会を創っていく子どもたちに必要な資質・能力とは何か、そしてそれらを育むためにどのような学びや活動、さらには学校運営が求められるのかを示すものでもあります。

年度内には正式決定（告示）が行われ、その後の準備期間を経て、2030年度から全面実施される予定です。本市においても、この流れを見据えながら、この夏、教科指導や学校運営などさまざまな視点から協議や研修が進められていました。

学習指導要領の改訂は、子どもたちを取り巻く重要な教育環境の一つです。本校の学校教育目標である「人や自然に進んでかわかり、自ら学びを高め、心豊かにたくましく生きていく力を育てます。～自己教育力とコミュニケーション力の育成～」と併せて、子どもたち自身はもちろん、保護者の皆さま、地域や外部協力者の皆さまともしっかり共有していきたいと考えています。ぜひ、これからも関心をお寄せいただけたら幸いです。